

唐津の美しい自然の中で育った少年は、その後フリーのライターとなり、現在では環境や農業、地域活性化問題などのルポを世に送り出している。唐津くんちの写真集も手がけた金丸弘美さんのバックボーンには、故郷の海辺と人々の風景がある。

フリーライター
金丸 弘美さん(48)



かなまる・ひろみ
1952年、唐津市生まれ。大東文化大学卒。「スーパーラット 都市の野獣クマネズミの恐怖」など著書多数。全国のフリーランサーでつくる「ライターズネットワーク」主宰。世田谷区在住。

東唐津、城内、駅周辺と引越はしまし

た。唐津東高では新聞部に所属、大学進学で上京し、映画研究のサークルに入

が増えて。松金よね子さんや佐藤B作さんといった俳優たちともよく遊びましたね。

「虹の松原」って本当に絶妙なネーミング

た。映画、演劇をひたすら見た。

「いざれフリーで活動しよう」と思っていたという。十年で区切りをつけ

青から紺に至る海のグラデーション、砂浜の

卒業後は、美容院向けに専門誌を出す出版社に入りましてね。仕事の傍ら、映画や演劇鑑賞も続けていた。給料の大半をつぎ込んで

「自分は何で勝負すべきか」考えていたとき

「七色の美」に何度も感嘆しました。

いろいろなところに顔を出すから、知り合い

唐津くんちの写真集を数年前に出したんです。自分の原点を見つめたいの思いから。四年掛かりの取材。いやー大変でしたね。唐津のことは分かったつもりでいたのに地域の構成とか、しがらみとか、知らないことがたくさんあった。地域の経済社会の実情な

ど、多角的に学ぶことができました。この五年間で全国二百カ所を回った。その体験から思うことは、商店街や住宅地など印象が似通ったところが各地にある。もったいないですね。唐津市が、映画やテレビドラマの撮影を誘致する「フィルムコミッション」事業に乗り出しますが、それには唐津でしか見られない景観が不可欠です。それぞれの町には必ず、そこにはかない美しさがあると思います。それを直視し守ってほしいなあと思います。

その町特有の景観

大切に守り続けて

